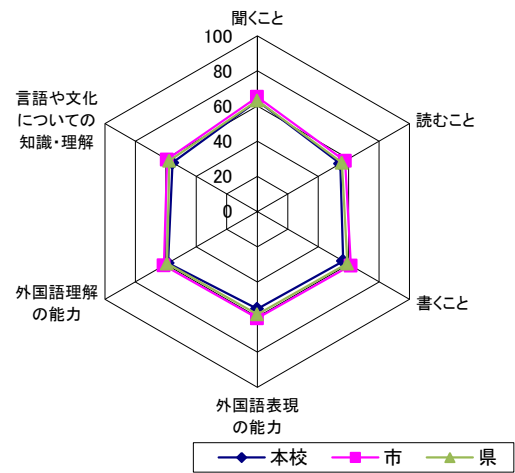


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	62.9	65.2	63.2
	読むこと	54.5	57.6	55.6
	書くこと	56.4	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	55.4	60.7	58.4
	外国語理解の能力	58.6	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	55.6	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○県平均正答率と概ね同程度の水準である。特に、まとまった英文を聞き、曜日などの簡単な情報を聞き取る問題は正答率が高い。対話文の中から必要な部分を聞き取る力もあり、リスニング問題に対しては概ね対応できている。 ●Whose～?の疑問文に対し、所有格を用いて応答すべき問題の正答率が49.2ポイントとなっている。また、まとまった英文を聞き、場所の名前など複雑な言葉を聞き取り応答する問題は県平均を5.8ポイント下回る57.0ポイントの正答率を示した。	・リスニング問題では、基本的な事項が聞き取れるものの、長文や応用問題になると理解度にばらつきが出ている。このことから、普段の授業からリスニング教材に触れる機会を提供したり、様々な形の問題に慣れさせたりする指導が必要である。また、生徒同士のコミュニケーション活動でも、英語のみで行わせることを徹底し、英語に対し英語で応答をするということを身に付けさせたい。
読むこと	○Whenなど疑問詞を用いた短い対話文の正答率は70ポイント強と高く、前年比で14.2ポイント上昇した。長文でも、簡単な内容を読み取る問題は80ポイント以上の正答率である。 ●礼の表現という基本的な知識を問う問題で、県平均を8.4ポイント下回る77.1ポイントという正答率を示した。長文問題では、指示された語の内容説明や、文章の要約などの応用問題で正答率が5割を切っている。	・短い対話文などの読み取りは比較的対応できるものの、まとまった長文を読解する力が著しく低い値を示している。また、応用問題への対応力も、ほとんどの生徒が身に付けていないといえるような状況である。このことから、教科書掲載の長文を利用し、まとまった文への読み取り方を練習させたり、様々な設問を利用し応用力を身に付けさせたりするような指導が肝要である。
書くこと	○名前を名乗ったり、好きなことを表現したりする基本的な英作文問題では、80ポイント以上の正答率を記録している。また、How many～?を用いた疑問文を作文する設問では、県平均を11.4ポイント上回る65.5ポイントという正答率を示した。 ●良好な状況を示す部分を除き、県平均正答率を5ポイント以上下回る問題が多く見られた。特に、条件英作文では正答率が3割を切るなど、習得が不十分な部分が明らかになった。	・基本的な事項に加え、様々な文法や表現を活用した文章を書く練習が不十分だということが結果から読み取れる。また、条件英作文では、どのような状況で、どんな文で、何を表現するのかということが身に付いていないことが明らかになった。これらのことから、授業において活動する際、状況・場面設定を必然的なものにし、実際の場面を想定させながら作文させたり、会話させたりすることで、文法や表現の定着を促していく必要がある。